

目次

古典の中の〈世界〉／世界の中の〈古典〉

——土左日記・源氏物語・今昔物語集をめぐって——

(第一五〇回記念講演から)

荒木 浩……………一

方丈記の草庵生活における美文の意義

——「心澄む」に関連して——

岡山 高博……………八

宣長の歌学びの開眼

——『百人一首改観抄』の衝撃——

尾崎 知光……………一九

『永訣の朝』の位相

——宮沢賢治の挽歌をどう読むか——

吉良 幸生……………二三

村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』論

——〈ない〉から〈ある〉へ、〈世界のゆらめき〉をめぐって——

佐倉 明奈……………三六

名古屋大正期文芸雑誌考(四)

木下 信三……………四八

伊勢神宮参詣 松尾芭蕉と西行法師

恒松 侃……………五八

地歌『長等ナガラウの春』の歌詞から

——その古事来歴を尋ねて——

宮川 武治……………七一

俳句 薫風

湯本 明子……………八四

『文久写本狂言集』（愛知県立大学附属図書館蔵） 翻刻 九

狂言研究会……………八五

表紙解説

熊澤 美弓……………一〇二

名古屋市蓬左文庫蔵『続学舎叢書』翻刻（九）

浅井 圭子……………一〇三

『あいち国文の会』のあゆみ（九）

……………一一三

江戸時代における「待った」・「待ったり」表現の史的考察

——成立時期、特徴、及び「待ったり」表現の成立過程について——

井上 徳子……………一三二（左）

編集後記

長谷川 文子……………一三四